



ビタミン nurse



ご挨拶

自治医科大学看護学部
学部長・大学院看護学研究科長
水戸 美津子

今年度は看護学部には第6回生102名と3年次編入学生10名が入学し学部学生総数429名となり、大学院看護学研究科生と合わせると449名の学生がこのキャンパスで学ぶことになりました。昨年度から、より高い専門的能力とリーダーシップを身につけた看護職者の育成のために大学院看護学研究科がスタートし、看護師等の臨床経験を有する社会人大学院生と学部生との交流が可能となり、相互に良い刺激を受ける環境となっています。さらに昨年度は、夏季休暇中のへき地での医療施設等体験研修（希望者）を「夏季へき地研修特別プログラム」と位置づけ、秋には研修先の方にもご出席いただき第1回の公開報告会を開催いたしました。学生たちの体験報告の素晴らしさに感謝するとともに、へき地医療体験が大学での様々な学習を統合し、学生一人ひとりにとって大きな収穫になっていることがわかりました。このように、少しずつですが学生の学ぶ環境が豊かになりつつあります。

さらに、来年度入学生からは、新カリキュラムをスタートさせる予定で準備もしております。より学びやすい教育プログラムにするため教員全体で2年間にわたり検討してきたものです。また、学習環境の整備として授業の合間の時間で自習ができるような学習室と昼食をとったり友達と語らうサロンを分離してほしいとの学生たちの希望が叶うことになり、今年度中に校舎西側に新たに増築工事をする予定になっています。

今後、学生たちにはよく学びよく遊ぶことを通して、広い教養と専門知識を身につけ、これからの医療や世界そして自分の人生について考え、多くの友人をつくってほしいと願っています。



夏季へき地体験研修報告懇談会



第2期卒業生寄贈校旗

新 入 生 の 近 況

夢への第一歩

看護学部1年 縫田 有里恵

自治医科大学に入学して早3ヶ月が過ぎました。入学当初は憧れの大学生活への希望でいっぱい反面、勉強についていけるか、友達ができるか、など不安もありました。しかし、同級生はみんな良い子達ばかりで安心しました。今は、熱心にご指導して下さる先生方や、親切な先輩方、同じ目標に向かって切磋琢磨できるすばらしい友達に囲まれて充実した毎日を送っています。

「基礎看護学」の授業で、感染予防についての初めての演習を行いました。手洗いの方法や、手袋・ガウン・キャップ・マスクなどの着脱方法を学びました。正しい手洗い方法を学んで、今まで自分がしていた手洗いの方法では、まったく手が清潔になっていないことに驚きました。医療者にとって、感染予防に関する知識と技術は不可欠なので、これからの生活の中できちんとした手洗い、感染予防を心がけようと思いました。

今、我が国は、少子高齢社会に入り、医療の求められる場は、病院に限らず地域での在宅医療、在宅ケアへと広がっています。長期の療養生活の中で生命の質を高めるためにも、医療は患者さん一人一人のライフスタイルに合ったものが求められます。このような地域医療を確立するためには、支える力である訪問看護師など

の看護職の役割が必要不可欠になると思われます。また、医療はめざましい進歩を遂げ、高度化しています。その中で看護職に求められるフィールドは、高度な先端医療から地域での訪問看護まで、益々複雑化、多様化していくと考えます。私はこのような時代の要請に応じて、高度化する医療のみならず、どのような状況においても役割を実践できる看護職を目指したいと思います。

そのためにも大学生活の中で、看護職に必要な専門的知識や実践能力を身につけ、豊かな人間性を育んでいきたいです。これからの4年間を有意義なものにするためにも夢への実現に向けて、しっかりと目的意識を持って、一日一日努力していきたいと思います。

自ら積極的に考え充実した学校生活に向けて

看護学部編入生3年 大垣 真理

自治医科大学に編入し、早3ヶ月が経ちました。最初は戸惑うことも多かった学校生活でしたが、徐々に生活のペースをつかみ、授業やセミナーを通して友人関係も広がり、充実した日々を送っています。

私たち編入生は、それぞれ目的と意志を持ってこの道を選びました。これまでに出会った患者さんや、看護を学んできた環境は様々ですが、それぞれが、看護に対する知識や態度を深めると同時に、自分の持つ看護観を深めるために



新入生懇親会

日々努力しています。医療従事者として成長するためにどう努力するか、自分自身を見つめ直し、真剣に考えています。

私たちにとってこの編入は、自分の目標を叶えるための大切な機会であると同時に、これから医療従事者として生きていく中での、あくまでも通過点に過ぎません。この2年間をどのように活かすかを決めるのは自分自身であり、期待と不安が大きいことも事実です。先生方は皆専門分野を極め、とても興味深い授業を行なってください。また、セミナーの先生や学年担当アドバイザーの先生方は、私たちの学校生活を良いものにしようと、些細な悩みでも相談

に乗ってください。恵まれた環境の中、受身でいるのではもったいないと思います。自ら積極的に考え、意思をもって学校生活を送り、2年間の学校生活をより良いものにしていこうと思います。

看護は人と人の繋がりが大切であり、命を預かるという責任感が重要となる現場です。自分自身の人間性や看護に対する思いが看護観を育て、看護への姿勢となって現れます。看護者として視野を広く持ち、同じ目標を持つ仲間たちと切磋琢磨し、今後も充実した学校生活を送って生きたいと思っています。

各 学 年 の 近 況

1年間を振り返って

看護学部2年 大貫 将人

大学に入学してからの1年間を振り返り、仲間と共に生活をおくる毎日は、常に私に刺激を与えてくれ、新鮮です。仲間とのふれあい、講義の内容、先生との会話などを通し、大学入学前では自分の知りえなかった、人それぞれの多くの価値観に触れる機会が多く、毎日が発見の連続です。なぜこんなことを言っているのかというと、私は今自分の中でそして周りで起こることすべてから、なにかを「感じとる」ことができているのか疑問に思うからです。

2年生になり大学生活には慣れ、自分の生活リズムを確立しコントロールできるようになってきたという安定は得られそうです。しかし、このような状況におかれた時、私にはいつも「重大な何かを自分は見失っている」という心配が

付いて回ります。今だってそうです。そこで私は立ち止まります。そして今自分の持っているイメージ(あたりまえと思っていること)を一度壊したりします。友達とのふれあいを通し、自分が今まで何も知らなかったこと、考えたことがなかった自分への悲しさを感じると同時に、今会話を通して新しいことを知ることができたという嬉しさを感じます。そしてそれを気付かせてくれた友達への感謝と大切さを感じます。と言っても自分が「あたりまえ」と思っていることは、それこそあたりまえすぎてなかなか気付かないのかもしれないかもしれません。わざわざ、つらさや悲しさを深く考えること、敏感に「感じとる」ことはやはり少し心に痛みを感じるものです。それでもこれからも私は、周りで起こるなんでもないようなことにでも、何かを感じとっていきたくと思っています。



臨床実習の学び

看護学部3年 上村 舞

入学してから、あっという間に2年が過ぎ、気づくと私も3年生になりました。

この2年間で基礎看護学実習、と成人看護学実習の3回の実習を行いました。最初の実習ではコミュニケーションが中心の実習で、患者さんとどんなことを話そうかなどと初めて

のことはかりで不安に感じていました。しかし、看護師さんの働く様子や患者さんの思い、病棟の様子などを知ることができました。2回目と3回目の実習では看護過程をもとに、患者さんのニーズに合ったケアを自分で考えて行いました。自分の中で患者さんにとって重要なことが分からなくなったり、どうすればより良いケアを提供することができるか迷ったりすることもありましたが、先生や臨床指導者さんにたくさんのアドバイスを頂いて学びの多い実習になりました。

毎回実習に行く前は緊張しますし、記録物もあり、つらく感じることもあります。しかし、実習での学びは机上の学び以上のもので、ひとつの実習が終わるごとに達成感や自分が成長したと感ずるので楽しいです。また、実習を終えた後は授業内容が実習前よりイメージしやすくなり、授業に対する姿勢も変わったと思います。

一方で、毎回の実習が終わると学びとともに反省点も出てきたり、課題が見えてきたりします。3年生の前期は3ヶ月間の臨床実習です。領域別の実習になりますが、考え方など基本的な部分では一緒だと思うので、反省や課題を次の実習で活かして、より深い学びにつなげようと思います。



3年間で振り返って

看護学部4年 荒川 千尋

時が経つのは早いもので、私ももう最高学年そして最終学年でもある4年生となりました。1年前の自分は、何を考え、何をしていたのだろう？2年前は？3年前は・・・？と、手帳を開き、思い返してみる時があります。

この3年間で振り返ると、自治医科大学に入学し、様々な『出会い』があったと思います。実習での患者さんとの出会い、日々支え合ってきた友人との出会い、部活では同学年に限らず、先輩・後輩など仲間との出会い等々たくさんの出会いがありました。

実習では、病棟だけでなく、福祉施設、学校、産業、訪問看護など様々なフィールドで実習させて頂きました。実習を通し、学ぶことがたくさんありました。私は、少しでも患者さんの力になれるよう、学生の自分でできることは何か？と考えながら取り組んできました。その中で、逆に患者さんに励まされることや、勇気づけられることも多かったように感じます。今でも、患者さんが言ってくれた言葉や、表情など一つ一つの出来事が胸の中に刻まれています。その言葉や表情が今の自分への励みにもなり、これからも夢に向かって頑張ろうという気持ちにさせてくれます。

そして、大学生活の中で得ることのできた仲間、私の中で一生の宝物になると思います。実習や部活動を通し、支え合いの大切さを感じています。人は、悩みや不安があると弱くなってしまう部分があると思います。しかし、そんな時、声をかけてくれる友人がいるだけで心が救われました。私は、そんな仲間を大切にしていきたいと思います。

私の中で、大学生活での出会いはすごく大きなもので、一つ一つの出会いが自分自身を成長させてくれたと思います。残りの大学生活もわずかとなりましたが、後悔のないよう一日一日を充実したものにしていきたいです。そして、4年生の最大のイベントともいえる、卒業研究、国家試験に向けて日々精進していきたいです。

ク ラ ブ 活 動

女子バレーボール部

看護学部4年 遠坂 沙央里

こんにちは、女子バレーボール部です。私たち女子バレーボール部は、医学部10名、看護学部15名の計25名で、そのうちプレーヤーが23人、マネージャーが2人で成り立っています。学部や学年を問わず、みんな仲がよいです。また、1人1人の個性が十分に活かされているので、とても明るく楽しい部活としてまとまることができています。

練習は火・金・土の週3回で、試合は年間5～7回行われています。女子バレーボール部は、中学や高校がバレー部という経験者もいるのですが、それより初心者が多いことも、私たちの部活の特徴の1つだと思います。はじめはパスもままならないような人たちも、先輩や経験者の部員から技術を教えてもらいながら練習を頑張っているのです。今ではどの選手も強い戦力に成長し、試合では安心してボールを任せることができています。このように、医学部と看護学部にも各1人ずつ頼れるキャプテンもいるし、エースもいるし、初心者もいるので、私たちの今の目標は優勝しかありません！！これからも優勝に向け、みんなで頑張っていきたいと思っています。

また、私はマネージャーとして部活を頑張っているのですが、部活での喜びは、やはり試合での一体感を感じることができることです。試合に出ているコートの中の選手たちが、みんなで力を合わせて点を取り喜びことはもちろん、その1点はコートの中の仲間の応援も力となっ



女子バレーボール部

ています。そのコートの中も外も一体となったときに私たちのチームは無敵になるので、大きな一体感を感じることができ、部活をやっているとよかったなと感じることができます。みなさんにも女子バレーボール部やバレーボールの素晴らしさを知ってもらいたいので、いつでも是非女子バレーボール部に遊びに来てください！

管弦楽団

看護学部4年 松本 瞳

自治医科大学管弦楽団は、年に一回の定期演奏会を中心に活動しており、他に病院内で開かれる七夕コンサートやクリスマスコンサート、及び大学の入学式や卒業式で演奏をしています。今年度の定期演奏会は、プロのヴァイオリニストの方を迎えての演奏会となりました。

「クラシック」というと、古くて敷居が高くて、難しいというイメージを持ってはいませんか？実は、そうでもないのです。私はヴァイオリンに憧れて、弾いてみたい！！という思いだけで入部してしまいました。最初は、本当に私にもできるのかな？と不安でいっぱいでしたが、明るくて優しい先輩方に教えてもらい、少しずつ演奏できるようになりました。素敵な曲にもたくさん出会い、クラシックの虜になっています。最近では、「のだめカンタービレ（マンガ、ドラマ）」の影響もあり、クラシックに興味が出てきた、カッコいいなと思っている方も多いのではないのでしょうか。さらに、楽器の魅力的なところは、何歳になってもできるということです。私も趣味としてヴァイオリンを弾



管弦楽団

き続けていられたらいいなと思っています。

また、空き時間や休み時間にサークルハウスへ行くと、練習をしている人や談笑している人など、自然と人の集まる温かい部です。とってモアットホームで居心地の良い、心のよりどころのような場所でもあります。

最後に、クラシックは聴いているのもいいのですが、オーケストラの一員として演奏することは、本当に気持ちのいいものです。初心者も経験者も大歓迎です。皆さんも私達と一緒に一つの曲を作り上げてみませんか

学生の自主的活動

私の見てきたカンボジア

看護学部3年 桑川 優

私は将来、内戦などで傷つく人のケアをしたいと思っています。昨年の夏休みの1ヵ月間、発展途上国であるカンボジアに行こうと思ったきっかけは、‘少しでも今のうちに世界を見てみたい’そんな気持ちからでした。学生である今、時間に余裕のある今、多くのチャンスを無駄にしないよう積極的にチャレンジしたい、いろんな人と触れ合いたい、少しでも将来の自分の糧にしたい...多くの期待と不安を胸に、私はカンボジアに向かいました。

今回、私は「JHP・学校をつくる会」と言うNGO団体を通してカンボジアに行ってきました。主な活動は、小学校に遊具として『ブランコを建てる』活動をしてきました。このNGO団体は、多くの会員の方や寄付金をカンボジアの教育復興に当てています。現地の人たちの力で教育の行き届いていない村などに小学校や中学校を建設したり、現地の先生養成の教育等をしてたりしています。詳しくは、ホームページアドレスを記載しますのでご覧下さい。

(<http://www.jhp.or.jp/index.htm>)

みなさんは、ブランコというどのようなイメージが湧くでしょうか？鉄筋で出来ていて子ども達が乗るもの。そんなイメージを浮かべる人もいると思いますが、今回私が建ててきたブランコは木造です。一からブランコを建ててきました。子どもが触る部分とかは特に念入りに木材にヤスリをかけ(写真1)汗まみれになりながら地面の穴掘り、ペンキを塗ってブランコの座椅子をつけるまで、みんなで力を合わせてブランコを建ててきました(写真2)。炎天下の

中行う作業は、体力的にも精神的にもとても辛い活動です。しかし、そんな中でも得たものは本当にたくさんありました。相手を思いやる優しい言葉が飛び交い、みんなで作り上げるという達成感を得られたことも大きな収穫でした。また、私達と一緒に村人も作業を手伝ってくれました。言葉は通じなくても、笑顔でコミュニケーションを取り合い、現地の人と繋がりを持つことも出来ました。笑顔ってこんなに元気が出るし大切なのだ、ということに改めて気付かせてくれるそんな瞬間でした。また、ブランコが出来た時に子ども達が笑顔いっぱい喜んで乗る姿を見ると、今までの苦労もどこかに飛んでいく気がします。この笑顔を見るために、私たちはここに来たのかもしれない、そんな思いにも浸りました。



(写真1)



(写真2)

見るもの全てが新鮮で、あっという間に過ぎてしまった1ヶ月。カンボジアの歴史に触れる遺跡を見に行ったり、地雷の埋まっている現場を見学したり、ゴミ山と言われる場所を生で見たり(写真3)物乞いする子に何もしてあげられない自分がとても悔しかったり...私は一人の日本人として、看護学生として、世界ではまだまだ貧富の差が残っているということを実感しました。本当の幸せとは何なのか、それはお金イコール幸せとは限らないということも、考えさせられる部分がたくさんありました。生きる希望を見ることが出来たり、命の大切さを改めて学べたり、本当に吸収するものが多すぎてまだ自分の中で消化しきれいていませんが、時間をかけてじっくり消化して行きたいと思います。

最後になりましたが、私の所属するNGO団体「JHP・学校をつくる会」では、家で使われなくなったピアノやリコーダー等の寄付を募集しています。そのピアノ等をカンボジアに送り、情操教育の一環として再使用しています。もし、寄付して下さる方がいましたら、直接事務所の方に送って頂くか、私のところまでお願いします。宜しければご協力お願いします。



(写真3)

看護学部4年石塚さんが駅長から感謝状贈られる

看護学部4年生の石塚真理子さんが、平成19年4月29日にJR両毛線列車内で急病の乗客に対して機敏な行動により適切な処置を施すなど看護に当たりました。

このことに対して、三志奈JR栃木駅長から感謝状が授与され、記念品が贈呈されました。

看護学部4年 石塚 真理子
今年で私も4年生になり、気持ちを新たにし

ていたこの度、JR栃木駅長様より、感謝状という名誉ある賞状をいただきました。このことの経緯についてお話しします。

これは、私が実家へ久しぶりに帰省しようと、JR両毛線に乗っていた時の話です。いつものように電車が栃木駅を出発しようとしたそのとき、急に止まり「急病のお客様がいらっしゃるため、緊急停車いたします。」とアナウンスが流れました。はじめ、すぐに救急隊が来るのだろうと思い、やじ馬の1人となって様子をうかがっていました。しかし、担架に寝ていた急病人がいきなり起き上がり、ふらつきながら歩いてベンチに座りだしたとき、何か様子がおかしい、心配だと思い、私はとっさに人をかき分けて急病人のところへ行きました。私はその人の横にしゃがみ、気分はどうか、苦しさや痛みはないか、と話を聞くことが精いっぱい(ヘルスアセスメント的なことは頭が真っ白でできません)でした。知識は普通の乗客より持っているはずなのに、ただそばにいることしかできませんでした。しかしながら、後で思った事ですが、患者に寄り添って患者のことを一番に考えること、それはまさに看護なんだなぁ、と感じました。

自治医大では、仲間との助け合い、寮生活や部活動での助け合い、励まし合い、思いやりが自然かつ常に存在しています。普段はあまり積極的ではない(?)私がこのような行動に出られたのは、とても良い環境で3年間、看護学が学べたからだと感じています。残りの1年間は、今まで学んできた看護を生かし、看護職として社会へ貢献するために自分がどうありたいかを考えていきたいと思います。



同窓会の設立

同窓会設立にあたり

同窓会会長 三谷 奈々
(1期生 2005年度卒業)

看護学部同窓会は2006年3月に1期生卒業をもって設立し、本年度より短期大学の同窓会と合併しました。卒業生の名簿管理や進路把握、広報などすべての活動を手探りで開始したところ です。

先日、私は6期生の入学式に同窓会会長として出席させていただきました。本年度より初めて看護学部の同窓会が入学式に出席させていただけるということを知り、とても嬉しい反面、非常に緊張しながら1日を過ごしました。在校生の皆さんには、講義・実習その他様々な経験を通し、学生生活を楽しんでいただきたいと思います。そして卒業後は一人の看護職者として、さらに同窓会の会員として、私たちと共に自治医科大学看護学部とつながりを持ち続けていただけたらと思っています。

今後とも役員一同試行錯誤しながら、卒業生への情報発信・卒後フォローや在校生の参加できる講演会などを行っていきよう努力していきます。会員の皆様、在校生の皆様にはまだまだご迷惑をおかけすることもあります。今後ともよろしくお願ひいたします。



同窓会長から卒業生へ花束贈呈
(卒業証書・学位記伝達式にて)

自治医科大学校歌の一部改訂について

自治医科大学校歌は、本学が単科の医科大学として開学(昭和47年)し、昭和52年に制定されましたが、平成14年に看護学部が開設されたことに伴い、医学部及び看護学部の2学部からなる大学の校歌として相応しい内容とするため見直しを行いました。

なお、改訂後の校歌は、平成19年3月9日の卒業式から施行しました。

改訂内容は次のとおりです。

歌詞1番から3番までの「医」を「医療」に改訂し、読み方は従来どおり「い」とした。

作詞・作曲「自治医科大学校歌選定委員会選」
作詞：佐々木康雄(秋田県2期) 詞補作：鈴木比呂志、
作曲：寺門道之(静岡県2期) 曲補作・編曲：荻久保和明
作・編曲：荻久保和明と表記した。

自治医科大学校歌

作詞 佐々木康雄 詞補作 鈴木比呂志
作曲 寺門道之 曲補作・編曲 荻久保和明

<p>一、若草萌える みどり松原 白亜も眩し 真理と愛を 若きひとみも ともに進まん</p>	<p>二、はるかに仰ぐ 高き理想と 清さを映す 英知の泉 若きゆくても ともに進まん</p>	<p>三、ゆかりは深し 古きくすしの こころを継ぎし 医療の谷間へ 若き誓いも ともに進まん</p>
<p>風うたう 自治医大 胸に秘め さえざえと 医療の道を</p>	<p>鬼怒川の 自治医大 汲みかわし はるばると 医療の道を</p>	<p>薬師寺の かげ慕い 自治医大 灯をともす あたたかく 医療の道を</p>

海外における支援活動

メキシコ国における

「JICA：草の根支援事業」の活動報告

母性看護学准教授 大原 良子

自治医科大学看護学部では、2006年10月からJICAの草の根支援活動として、メキシコ国ベラクルス州において「保健医療専門家とピアリーダーによる健康的なライフスタイルづくり計画」というプロジェクトを展開しています。メキシコは中進国に分類され途上国ではないのですが、民族的・歴史的な困難を抱えており、特にへき地と呼ばれる地区の多くの住民は、豊かな都市部の住民とは全く異なり、交通の便の悪い山奥の不便な地域で貧しい生活をしています。そのようなへき地住民の健康を改善することがプロジェクトのねらいです。

1月に同州の保健省と2つの保健区から3名の医師・看護師が研修生として当学部を訪れました。彼らは、住民へ様々な保健指導を行なっているにもかかわらず、その指導が生活にいかされず健康状態の改善が図れないという課題を抱えていました。そこで、日本で行なわれている住民の行動変容に働きかける新しい地域保健活動を学ぶために来日しました。2週間と研修期間が短いため、毎日朝9時から17時までぎっしり授業が組まれ、ややきつい行程ではありましたが、大学の教職員との交流会や学生との親睦会なども企画され、楽しい滞在となりました。そして、研修生から今回の学びを「思春期の子どもたちの中からピアリーダーを育成し、地区

住民への健康的なライフスタイルづくり支援」として活用したいという申し出がありました。それぞれ2つの保健区からモデル地区を選び、実施に向けた準備活動を話し合い帰国しました。

3月に看護学部の教員5名が同州を訪れ、保健医療者へのエンパワーメント研修とコミュニティ・デベロップメントについての研修を行いました。日本で研修を受けた3名を中心に、保健医療専門家と具体的な目標とアクションプランの立案と、モデル地区の視察など思春期の子どもたちを対象としたピアリーダー育成研修に向けての準備を行ないました。

そして5月にモデル地区2箇所を対象となる思春期の子どもたちに研修を行いました。この渡墨には、看護学部の卒業生江角伸吾さん（1期生）も同行し、思春期のピアリーダー育成に協力してくれました。江角さんはすぐ人気者となり、日本についての様々な質問を受け、スペイン語も2週間でかなり上達しました。講義を終了後、子どもたちに、健康的なライフスタイルづくり支援をテーマに取り上げ、支援の方法を発表してもらいました。テーマとして取り上げた内容は、デートDV・喫煙・飲酒の予防及び第2次性徴に伴う身体の変化に関する情報提供などでした。

保健所・学校だけでなく、研修に参加した子どもたちの親、地区の代表者など様々な方からも、子どもたちが活動に楽しそうに参加し、幸せを感じていると感謝の言葉をいただきました。



ベラクルス州ポサリカ地区の保健医療専門家と自治医科大学看護学部教員

各領域の研究室・教員紹介

*成人看護学*****

教授 中村 美鈴

成人看護学領域では、健康課題をもつ成人の生活を支援するために必要な知識を学びます。成人とは、身体も心も成熟したいわゆる「大人」のことを示しています。暦年齢では15歳から64歳ぐらいまでを言います。成人看護学は、就職して社会で働いたり、結婚して家庭生活で家事や子育ての中心であったり、社会的役割や責任をもちながら生活をしている人とその家族を対象としています。また、こういう世代の人が病気になった時、治療を安全・安楽に受け、苦痛・苦悩を緩和し、その人にとっての健康へと回復していくまで、あるいは病気をもちながら、その人らしく幸せに生活するための看護を、一人ひとりの立場や役割、生活習慣と関連づけて考える学問分野です。

授業科目としては、1年次は成人看護に有用な概念や理論を学習し、看護の概要を学ぶ「成人看護学概論」、2年次には機能障害をもつ成人とその家族に必要な看護の視点について学ぶ「成人臨床看護学」・「成人臨床看護学」と、成人期にある人の保健問題の動

向と対策を知り、看護の課題や看護職の役割を考える「成人・老年保健論」があります。2年次後学期には成人看護学実習、3年次前学期には成人看護学実習という臨地実習を自治医科大学附属病院で行います。これらの実習は、臨地スタッフの協力を得て学生自身が患者を受け持ち、教員と共に看護を実践します。特に実践教育に力を注いでいます。

これらの授業科目を担当します専任教員は、中村美鈴（教授）、水野照美（准教授）、山本洋子（講師）、内海香子（講師）、清水玲子（講師）、武正泰子（助教）、金井美樹（助教）の7名です。他、TA（ティーチング・アシスタント）として大学院生が、教育のアシスタントを状況に応じて行っています。

領域では、教育・研究に対して、常に最高の成果を目指して、日々、取り組んでいます。また、創造的なアイデアを生み出せるよう、領域会議では活発な意見交換を行っています。さらに学問以外にも、さまざまな人々の日常生活の有り様について体験談を語り合い、グローバルな視点で物事を捉えられるよう努めています。学生の皆さんといろんなことを語り合い、共に成長し、豊かでのびのびとした日々を過ごしたいと思っています。



* 老年看護学 * * * * *

教授 水戸 美津子

老年看護学は、老年期にある人の病気や障害にのみ焦点をあてるのではなく、加齢現象をふまえて高齢者の発達課題やその健康特性および健康障害を理解し、それらに伴って生じてくる生活障害に対する看護を学ぶことが中心となる分野です。また、老年看護実践という視点から見るとその活動は、医療のみならず保健や福祉の場での役割が拡大してきています。しかし、看護学の分野では平成2年に誕生した新しい専門分野です。

多くの学生たちが講義を受ける前に『老年看護』に対しては“介護”“寝たきり”“認知症”などの暗いイメージをもっているようです。2年前期「老年看護学概論」の第1回目の私の講義の感想文には“老年は介護のことを扱うと思っていたけど、それだけじゃないことがわかった”“奥が深い分野なんだ～”“暗いイメージから明るいイメージに変わった。今後の学習が楽しみ”等々の自分たちのイメージとの違いを率直に驚きと共に記述しています。授業では、高齢者を多面的に多様

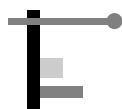
に理解してほしいため教員それぞれが様々な工夫をしています。

領域で取り組んでいる研究としては、脳卒中後の患者さんの在宅ケアに関する研究、高齢者大腿骨頸部骨折患者の術後の生活拡大に関する研究、高齢者の視覚障害の実態とそのケア方法に関する研究など、いずれも高齢者のケアに焦点をあてた研究を重ねてきています。

老年看護学領域の教員は、水戸美津子（教授、看護学部長・大学院研究科長を兼務）、高木初子（准教授）、井上映子（准教授）、永盛るみ子（講師）、池田浩子（助教）の5名です。私が学部長・研究科長を兼務しているため領域内の他の教員が様々な面でカバーしてくれています。

このような教育・研究活動を通して、大学病院だけでなく介護保険関連施設や訪問看護ステーションなどの地域に出ることが多くなっており、集まるとこれからの高齢社会や老年看護の行くべき方向性などについてディスカッションすることが多い活気のある領域です。





新任教員紹介



基礎看護学教授

岩永 秀子

平成19年4月から基礎看護学教授に就任いたしました岩永秀子です。よろしくお願い申し上げます。

自治医科大学はキャンパス内に高度医療を担う附属病院があるだけでなく、松林や芝生の緑に囲まれ、大変恵まれた学習環境を有しています。この豊かな学習環境の中で、学生と議論し、夢を語り合い、時には大笑いしながら、共に歩んでいきたいと思っています。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

老年看護学准教授

井上 映子

一つの大きな節目をいただいて着任しました、老年看護学を担当いたします井上です。これまでに経験したことのない遠距離、新幹線通勤となります。体力に不安を抱えていましたが、例年より早い桜の開花に迎えられ、少し肩の力が抜けました。栃木の四季折々の風を感じ、今まで見えなかったものがきっと見えてくることに期待を寄せています。いろいろな方々との出会いに新しい力をいただきながら、あきらめず、欲張らず、心を揺り動かしてくれるものを大事に、自治医大での生活を楽しまたいと思っています。

地域看護学講師

塚本 友栄

4月から着任いたしました。住まいは県北、大田原市です。ベルツノガエルの「ポチャ」と鶏の「コケ」、そして娘と旦那で暮らしています。就任初日には歓迎の会を催して頂き、また「保健・看護研究セミナー」の授業を通して他領域の先生方・新入生の方々と親しく接することができ、すっかり緊張が解けました。自治医科大学看護学部という組織の一員として、大学の教育理念の実現に向け努力する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

地域看護学講師

工藤 奈織美

私は青森から栃木に引っ越してきました。引っ越しの日、東北地方は大雪注意報が出ていたのに栃木はいいお天気で桜が咲いていて、ずいぶん違うものだなーとまさに地域差を実感しながら南下してきました。

看護の教員になって早や9年目を迎えました。保健師だった時は住民との出会い、教員になった今は学生との新しい出会いがとても楽しみです。楽しく学ぶことを忘れずにやっていきたいと思っています。

小児看護学講師

関森 みゆき

このたび、看護学部小児看護学領域の講師として着任いたしました。

複数のことを同時に進めていくことが苦手なため、「よく学び、よく遊べ」に倣い、教育と研究、仕事と息抜き・・・、バランスよく取り組んでいくことが目標です。こころとあたまとからだをフル活動させ、栃木の自然を満喫しながら精進してまいりたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

小児看護学助教

佐藤 亜矢

はじめまして。4月から看護学部小児看護学に助教として着任しました佐藤亜矢です。自治医大の自然あふれる、広いキャンパスに少しずつ慣れてきた毎日です。

昨年度まで小児病棟で看護師として仕事をしていました。長期にわたって入院しなければならないお子さんたちの看護について関心を持ち、深めていきたいと考えています。

毎日を大切に一生懸命過ごしていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

精神看護学助教

谷田部 佳代弥

4月から精神看護学の助教として勤務することになりました。3月までの7年間、精神病院の看護師としてケアを実践して参りました。精

神看護の難しさに悩みは尽きませんでした。病を背負いながらも懸命に生きる患者さんの姿に励まされ、学びの多い日々でした。今後は大学という新たな環境に身を移し、これまでの臨床経験を生かし、学生の皆様の学習の一助となれるよう努めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

母性看護学助教 西岡 啓子

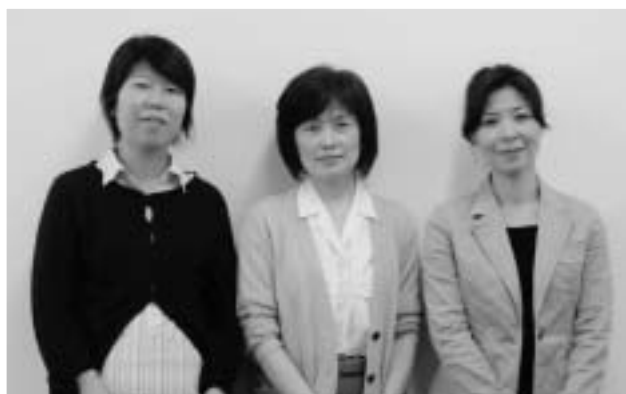
4月から自治医科大学看護学部母性看護学の助教として赴任してきました西岡啓子です。

出身は愛知県で、3月まで名古屋の病院に助産師として勤務していました。

教育の場で勤務させていただくのは初めてで、不慣れなことも多く、まだまだ至らないことばかりですが、学生さんたちのやる気に負けないよう頑張っていきたいと思っていますのでよろしくお願い致します。

母性看護学助教 加藤 優子

4月より母性看護学の助教として勤務させていただいております加藤優子と申します。出身



は広島で、広島の公立病院で看護師・助産師として臨床で勤めました。教育の現場は初めてなので試行錯誤の毎日ですが、学生さんの若さと優秀さと純粋さに日々パワーをもらいながら頑張っています。ご迷惑をお掛けすることも多いことと思いますが、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

成人看護学助教 武正 泰子

4月から助教としてこちらでお世話になることになりました。今までは臨床で看護師として勤務しておりましたので、教員1年目となります。今は中村教授始め、諸先生方にサポートしていただきながら、悪戦苦闘の毎日を送っています。まだまだ足りない部分も多いと思いますが、今まで勉強してきた知識や臨床での経験を生かしていけるよう努力していきたいと思っていますのでよろしくお願い致します。

成人看護学助教 金井 美樹

4月から成人看護学領域の助教に就任いたしました金井美樹と申します。これまで、主に呼吸器疾患や乳腺疾患に関する看護に携わってきました。

教員としては新米なので、中村教授をはじめ諸先生方のご指導のもと、看護と教育への知識を深めていきたいと思っています。

また、栃木の自然と春夏秋冬を感じながら、豊かな人間性を身につけていければ幸いです。

どうぞ、よろしくお願い致します。



教員名簿 (職位順・50音順)

(平成19年7月1日現在)

職名	氏名	区分	役割
教授	水戸美津子	学部長	
教授	岩永 秀子	基礎看護学	教務委員会委員長
教授	川口 千鶴	小児看護学	
教授	高村 寿子	一般基礎	
教授	竹田 俊明	専門基礎	
教授	竹田津文俊	専門基礎	学生委員会委員長
教授	中村 美鈴	成人看護学	
教授	永井 優子	精神看護学	教務委員会副委員長
教授	成田 伸	母性看護学	
教授	春山 早苗	地域看護学	
教授	渡邊 亮一	一般基礎	
准教授	井上 映子	老年看護学	国家試験対策委員会委員長
准教授	大久保祐子	基礎看護学	
准教授	大塚公一郎	一般基礎	
准教授	大原 良子	母性看護学	
准教授	高木 初子	老年看護学	学生委員会副委員長
准教授	半澤 節子	精神看護学	
准教授	真砂 涼子	基礎看護学	学年担当アドバイザー 4 学年担当
准教授	水野 照美	成人看護学	
講師	内海 香子	成人看護学	学年担当アドバイザー 3 学年担当
講師	工藤奈織美	地域看護学	
講師	黒田 裕子	母性看護学	
講師	里光やよい	基礎看護学	
講師	清水 玲子	成人看護学	学年担当アドバイザー 4 学年担当
講師	鈴木久美子	地域看護学	
講師	関森みゆき	小児看護学	学年担当アドバイザー 1 学年担当
講師	塚本 友栄	地域看護学	
講師	永盛るみ子	老年看護学	
講師	横山 由美	小児看護学	
講師	山本 洋子	成人看護学	学年担当アドバイザー 2 学年担当
助教	青木さざり	地域看護学	
助教	池田 浩子	老年看護学	
助教	植竹 貴子	母性看護学	
助教	宇城 令	基礎看護学	
助教	加藤 優子	母性看護学	
助教	金井 美樹	成人看護学	
助教	川上 勝	基礎看護学	
助教	佐藤 亜矢	小児看護学	
助教	佐藤勢津子	精神看護学	
助教	武正 泰子	成人看護学	
助教	田中 美央	小児看護学	
助教	角田こずえ	基礎看護学	
助教	西岡 啓子	母性看護学	
助教	舟迫 香	地域看護学	
助教	谷田部佳代弥	精神看護学	

役割については、学生の教育・生活支援に関わる委員会等のみとした。

看護学部平成18年度卒業生(2期生)の動向

【進路状況】

H19.3.31現在

就職	自治医科大学附属病院	35名
	自治医科大学附属 さいたま医療センター	23名
	その他の病院等	42名
進 学		2名
そ の 他		5名
合 計		107名



卒業式式典風景



卒業証書・学位記伝達式風景

大学院生からのメッセージ

大学院生活について

看護学研究科修士課程2年 関 澄子

わたしは、この自治医科大学で看護学生時代を過ごし、臨床経験を積み、また教育にも携わった。この親しみ深いところで、より高度な知識と技術を習得して、実践の場で活躍できる専門看護師になりたいと思い、看護学研究科の扉をたたいた。そして、できたてほやほやの修士課程の1期生となった。

実践看護学分野健康危機看護学領域の精神看護学を専攻している。「共通必修科目」は同期、全11人で授業を受けた。病院や施設の管理をしている方、地域で保健活動をしている方、看護教育に携わっていた方等、まさしく授業は様々な切り口で満ちていた。看護学研究科では長期在学制度があるため、多くの院生がその制度を活用し、働きながら学んでいる。そして、専門科目では、精神看護を専攻している同期がほかにいないため、「精神看護学講義」と「精神看護学演習」は、多くが指導教授とマンツーマンの濃厚で贅沢な授業であった。また、「精神看護学演習」の中で、実際病院で活躍している精神看護専門看護師の参加観察を行い、地域で重症精

神障害者を支えるACTチームの実践の見学を行った。「精神看護学特別演習」では、精神科病院で3事例に対して直接ケアを担当する6週間の実習を行った。またこれから、精神障害者社会復帰施設で10日間の実習を行うことになっている。同時に「健康危機看護学特別研究」、いわゆる修士論文の作成を推し進めているところである。

大学院での勉強は、自分との戦いである。授業のプレゼンテーション資料や研究計画書などの作成にあたり、考えがまとまらず自分の力のなさに落ち込むことも、研究室で朝を迎えることもある。家族や仲間などによる支えと温かみのある指導を受けながら、知力と体力の限界に挑んでいる。そして今思うことは、実際は看護を通して、人としての生き方の幅を広げることになっているのではないだろうか。

人は何歳になっても学びたいと思う気持ちがあったらいつでも学べる、そのチャンスのひとつが大学院なのではないかと思う。看護学部の学生の皆さんも卒業後大学院で学び視野を広めることを、人生計画の中に入れてみてはいかがでしょうか。



年間スケジュール

前学期

後学期

4月

4/9 入学式

4/10 授業開始(1年)

4/28~5/6 春季休業

5/14 大学創立記念日

7/3~7/6 定期試験(4年)

7/25~7/30 定期試験(1・2年)

7月

夏季休業

8/4~9/30

10月

10/1 授業開始

10/5~10/7 学園祭

12/24~1/3 冬季休業

1/25~1/30 定期試験(全学年)

3/7 卒業式

3/22~ 学年末休業

3月



大学事務部副部長 藍原 孝樹

編集後記

看護学部の開設から6年目となりました。ビタミンNも第4号となり、記事の構成もほぼ固まりつつあるように思われます。これから少しずつ年輪を重ねていくことになるのでしょうか。学生の大学生活と教員の教育研究活動を少しでもお伝えできる通信となるよう、今後とも努力していきたいと思っております。ご意見やご提案などございましたら、遠慮なくお申し出いただければ幸いです。

編集委員 半澤、横山、清水、石倭

ビタミンN 第4号

発行日 平成19年7月

発行 自治医科大学看護学部
〒329-0498

栃木県下野市薬師寺3311-159

TEL 0285-58-7409